

## デルフィニウム・シネンシス系の11月出荷作型に適した育苗日数の検討

中村 広・郡司定雄 (宮崎県総合農業試験場)

Hiroschi NAKAMURA and Sadao GUNJI :

Raising seedling days of fall shipment of *D.chinense* (= *D.grandiflorum*) 'Highland Blue'

デルフィニウム・シネンシス系は矮性である原種 *D. grandiflorum* から育成された品種群である。近年、育種が進み高性の品種も育成されているが、本来矮性であるため、この系統の良品生産のためにはまず第一に草丈を確保しボリュームのある切り花を得る必要がある。生産現場では主に12~1月出荷での栽培であるが、一部ではさらに前進化した11月出荷作型にも取り組んでいる。11月出荷作型は高温期の9月に定植を行うため、若齢の苗は早期に開花し貧弱な切り花になることが予想できるが、この作型に適した育苗日数の検討はなされていない。そこで11月出荷作型に適した育苗日数を明らかにするために、育苗日数が開花および切り花形質に及ぼす影響について検討した。

## 1. 材料および方法

品種 'ハイランドブルー' を1999年6月15日、6月30日、7月15日、7月30日、8月14日に播種しそれぞれ100日、85日、70日、55日、40日の育苗を行う5つの試験区を設けた。播種後は15℃に設定した低温庫で発芽を促した。それぞれ8日目から夜間(16:30~8:30)は10℃の夜冷庫内、昼間は50%遮光、細霧冷房を行った雨よけハウスで育苗した。9月22日に畝間135cm、株間20cm、条間20cm、4条植えて定植した。定植後から栽培終了まで日長延長法により16時間日長とし、最低夜温10℃、最高昼温25℃を目標に管理した。試験は1区20株2区制で行った。

第1表 定植時、抽だい時葉数および平均抽だい日、開花日

| 試験区   | 定植時<br>葉数(枚) | 抽だい時<br>葉数(枚) | 平均抽だい日<br>(年.月.日) | 平均開花日<br>(年.月.日) |
|-------|--------------|---------------|-------------------|------------------|
| 40日区  | 2            | 6.0           | 1999. 10. 18      | 1999. 11. 26     |
| 55日区  | 4            | 7.0           | 1999. 10. 8       | 1999. 11. 17     |
| 70日区  | 5            | 7.7           | 1999. 10. 8       | 1999. 11. 18     |
| 85日区  | 8            | 10.3          | 1999. 10. 4       | 1999. 11. 17     |
| 100日区 | 9.7          | 12.1          | 1999. 10. 5       | 1999. 11. 19     |

## 2. 結果および考察

定植時の葉数は育苗日数が増すごとに多くなり40日区が最も少なく2枚で、100日区が最も多く9.7枚であった。40日区は定植時から本葉4枚、他の区は2~3枚展開し抽だいたした。平均抽だい日は大苗の85日、100日区がそれぞれ10月4日、10月5日と早く、次いで55日、70日区が10月8日、40日区は最も遅く10月18日と夜冷育苗で抽だいを長期に抑制した苗ほど抽だいが早くなる傾向があった(第1表)。40日区の抽だいが遅かったのは、定植時の展開本葉数が2枚と幼若相であったためと考えられた。

85日、100日区は抽だい後の心つぶれ症状がそれぞれ47.5%、15.0%発生した(第2表)。心つぶれ症については抽だいの早い85日育苗、100日育苗の大苗に発生し、その中でも育苗容器の容量の少ない85日区に多発したことから、高温時に定植したための活着不良が原因ではないかと推察した。

平均開花日は40日区が他の試験区より7から9日遅く11月26日であった。他の試験区は11月17日から19日に開花し、区間に差はなかった。

切り花形質はすべての形質で育苗日数が長くなるほど大きい値を示す傾向があった。特に40日区、70日区、100日区との間では切り花重を除くすべての形質で育苗日数が多くなるほど有意に優れた(第3表)。

以上のことから、11月中下旬にボリュームのある切り花を得るには85~100日の育苗期間が必要であることが明らかとなった。

第2表 心つぶれ発生株率

| 試験区   | 発生株率<br>(%) |
|-------|-------------|
| 40日区  | 0           |
| 55日区  | 0           |
| 70日区  | 0           |
| 85日区  | 47.5        |
| 100日区 | 15.0        |

第3表 切り花形質

| 試験区   | 切花重<br>(g) | 切花長<br>(cm) | 花穂長<br>(cm) | 小花数<br>(個) | 側枝花蕾数<br>(個) |
|-------|------------|-------------|-------------|------------|--------------|
| 40日区  | 20.5±1.0a  | 52.2±1.3a   | 19.2±0.9a   | 3.6±0.2a   | —            |
| 55日区  | 25.0±1.4ab | 56.2±1.3ab  | 22.1±0.8ab  | 4.3±0.2ab  | 14.1±0.6a    |
| 70日区  | 25.5±1.5ab | 59.7±1.2bc  | 23.5±0.8b   | 4.8±0.2b   | 14.9±0.6a    |
| 85日区  | 31.3±3.2bc | 65.8±2.6cd  | 25.4±1.2bc  | 6.5±0.4c   | 19.5±1.3b    |
| 100日区 | 39.5±3.3c  | 72.5±1.0d   | 30.0±1.3c   | 8.3±0.4d   | 24.4±0.9c    |

注) z 平均値±標準誤差

y アルファベットは Bonferroni の多重比較による有意差検定、同一形質の同一文字間に有意差なし (P &lt; 0.01)